

# エンジンの始動

CORONA **MARK II 1700 / 1900**



## ■オートマチック・チョーク

トヨペット・コロナ・マークIIのキャブレターには、オートマチック・チョークがついています。このため、エンジンが冷えていると自動的にチョークされて、混合気が濃くなりエンジンの始動を容易にしております。

次の要領でエンジンを始動してください。

1. パーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルにします。
2. アクセル・ペダルをいっぱい踏み込んで離します。これでオートマチック・チョークが働き、温度に応じてチョーク・バルブが閉じます。

アクセル・ペダルを踏み込む要領は、外気温によって、次のように行なってください。

外 気 温	アクセル・ペダルの踏みこむ回数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい 1～2回
-10℃～-15℃	いっば 2～3回
-15℃以上	いっばい 4回

3. クラッチ・ペダルを踏み込んだ状態でエンジンを始動してください。

エンジンが始動した時アクセル・ペダルから足を離しておいてください。

4. 始動後、暖機を十分行なってください。

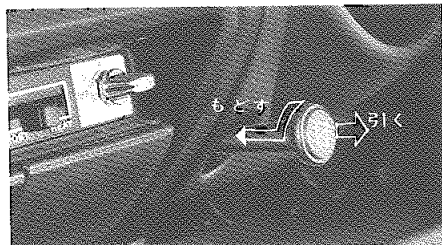
このとき、オートマチック・チョークが働いてアイドル回転数がいくぶん高目となり、暖機をたすけております。

5. 暖機後、アクセル・ペダルを一度軽く踏んでください。これにより、オートマチック・チョークの働きがなくなり正規の回転数にもどります。

#### ＜注意＞

1. スターター・モーターは10秒以上使用しないでください。10秒以内で始動しない場合は30秒位休み、バッテリーの回復をまってから再始動してください。
2. 始動後、エンジンの回転が円滑に持続しないときは、アクセル・ペダルを軽く踏み、回転が円滑になるよう助けてやってください。

#### ■ SL・GSL車



SL・GSL車にはチョーク・ボタンがついています。引っぱり出すとチョークができます。

気温が下がり、始動困難の場合に使用します。元にもどすときには、左に約90°まわして押しこみます。

気温の高いときは、チョーク・ボタンを引かずに、アクセル・ペダルを少し踏みながらエンジンをかけてください。

気温が下がり、始動困難の場合には次の要領で行なってください。

1. チョーク・ボタンをいっぱい引いてください。
2. アクセル・ペダルを踏まないでエンジンをかけてください。

3. 始動後、エンジンの回転数が2500r.p.m以上になったら、チョーク・ボタンを徐々にもどし、エンジンの回転数が、2000r.p.m程度になるように、チョーク・ボタンを調整して、充分暖機運転を行なってください。

#### ＜注意＞

始動直後、エンジンの回転が円滑に持続しない場合は、アクセル・ペダルを踏みながら円滑に回転するようにしてください。

4. エンジンが暖まり、チョークを使用しなくてもエンジンが円滑に回転するようになったら、チョーク・ボタンを元にもどしてください。